

こどもの予防接種について

千葉県小児科医会 こだま たかひろ 小玉隆裕 医師

こども急病電話相談

受診するべきかどうか迷ったら

#8000

毎日夜7:00~翌朝8:00

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP電話・光電話・銚子市からは
☎043 (242) 9939

Q1 予防接種はなぜ必要なの？

予防接種には「個人を守る」「社会を守る」という2つの役割があります。

まず、予防接種を受けると、その病気の発症や重症化を予防できます。例えば、日本脳炎という病気では、発症すると20～40%の方が亡くなり、生存しても45～70%に重度の後遺症を残すと言われていますが、4回の予防接種で発症のリスクを75～95%減らします。これが「個人を守る」ということです。

次に、多くの人が予防接種を受けることで、集団の中に感染者が出ても、流行を阻止することができます。これが「社会を守る」ことになります。例えば、赤ちゃんが百日咳に感染すると重症化し致命的になることがありますが、周りの人がきちんとワクチンを接種することで、予防接種を受けられない2か月未満の赤ちゃんが百日咳に感染することを防ぎます。感染や重症化の予防はもちろん、流行していない病気を再び流行させないように予防接種は必要なのです。

Q2 混合ワクチンを接種しても大丈夫なの？

混合ワクチンのメリットとしては、受診や針を刺す回数が減る、接種忘れ・接種ミス

減少、複数の免疫を短時間で得られることがあります。では、デメリットはなんでしょう？少なくとも予防接種を受ける側にとっては「無い」と言っていきたいと思います。

一つわかりやすい例を挙げますと、土の上で転んだ時のことを考えてみましょう。天然の土1gの中には、1,000種類以上の細菌や大量のカビがいます。これらが傷から体内に入ることによって、少なくとも混合ワクチン以上の抗体が作られることとなります。しかし、免疫系でのトラブルは起こりません。このことからわかるように、数種類の抗原を接種する混合ワクチンを恐れる必要はないのです。

Q3 接種予定内に受けられなかったのですが、どうすればいいですか？

スケジュール期間中に接種できなかった場合、公費(無料)の対象にはなりません。自費(有料)での接種は可能なものもあります。前述したとおり、打たなくて良いワクチンはありませんので、期間を過ぎてしまった接種については、かかりつけの医師にご相談ください。



* 次ページは「予防接種スケジュール2025年4月版(2025年2月作成)」ですので、参考になさってください。

予防接種スケジュール

大切な子どもをVPD(ワクチンで防げる病気)から守るためには、接種できる時期になったらできるだけベストのタイミングで、忘れずに予防接種を受けることが重要です。このスケジュールはNPO法人 VPDを知って、子どもを守るの会によるもともとも早期に免疫をつけるための提案です。お子さまの予防接種に関しては、地域ごとの接種方法やVPDの流行状況に応じて、かかりつけ医と相談のうえスケジュールを立てましょう。

ワクチン名	接種済み	0歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	1歳	1か月	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9か月	10か月	11か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	(満年齢)	
不活化 B型肝炎 (母子感染予防を除く)	<input type="checkbox"/>	0歳のうちに3回接種が必要。3回目は2回目から4-5か月の間隔をあけて受けます。1歳以上でも未接種の場合は、できるだけ早く受けることをおすすめします。(任意接種)																															
生 ロタウイルス (飲むワクチン)	<input type="checkbox"/>	ロタウイルスワクチンには、1価ワクチンと5価ワクチンがあります。遅くとも生後4週6日までに接種を開始し、それぞれの必要接種回数を受けます。																															
不活化 小児用肺炎球菌	<input type="checkbox"/>	必要回数を接種するために生後2か月になったら早くに同時接種を受けましょう。																															
不活化 五種混合 (ジフテリア・百日せき・破傷風・ポリオ・ヒブ)	<input type="checkbox"/>	百日せきの感染予防の目的で三種混合ワクチンを1回受けます。(任意接種) WHOもこの時期の追加接種を推奨しています。																															
生 BCG	<input type="checkbox"/>	海外では4歳以上でポリオワクチンを受けるのが一般的です。(任意接種)																															
生 MR (麻疹・風しん混合)	<input type="checkbox"/>	幼稚園、保育園の年長の4月～6月がおすすすめ																															
生 水痘 (みずぼうそう)	<input type="checkbox"/>	2歳混合(OT) : 11歳で追加接種(接種対象11-12歳)																															
生 おたふくかぜ	<input type="checkbox"/>	1歳の誕生日が来たら同時接種を受けましょう。小児用肺炎球菌・五種混合・MR・水痘・おたふくかぜの5本を同時接種で受けることができます。																															
不活化 日本脳炎	<input type="checkbox"/>	生後6か月から定期接種として受けられます。																															
mRNA 新型コロナウイルス	<input type="checkbox"/>	接種年齢やワクチンの種類によって、接種スケジュールが異なります。事前に最新情報をご確認ください。																															
不活化 インフルエンザ	<input type="checkbox"/>	毎年、10月から11月ごろに接種しましょう。																															
不活化 HPV(2価、4価、9価) (ヒトパピローウイルス)	<input type="checkbox"/>	男子は4価ワクチンを受けられます。(任意接種) 9価ワクチンの場合、初回接種が15歳未満なら2回又は3回接種、15歳以上なら3回接種。 小学校6年生になったら受けましょう。(定期接種の対象：小6から高1の女子)																															
不活化 髄膜炎菌	<input type="checkbox"/>	2歳から受けられます。海外留学や寮生活をする人などは接種を推奨しています。																															
生 渡航ワクチン	<input type="checkbox"/>	海外渡航の際には、上記のほか、黄熱、A型肝炎、狂犬病などワクチン接種が必要な場合があります。																															

定期 定められた期間内で受ける場合は原則として無料(公費負担)。
任意 多くは有料(自己負担)。自治体によっては公費助成があります。
 任意接種ワクチンの必要性は定期接種ワクチンと変わりません。

●異なる種類の注射の生ワクチン同士の接種間隔は最短で4週間です(4週間後の同じ曜日から接種可)。

定期の予防接種の対象年齢
 任意接種の接種できる年齢
 おすすめ接種時期(数字は接種回数)
 添付文書に記載のないおすすめ接種時期
 添付文書に記載のないが、接種を推奨

同時に複数のワクチンを接種することができます。安全性は単独でワクチンを接種した場合と変わりません。
 国や日本小児科学会も乳幼児の接種部位として太もも(大腿前外側部)も推奨しています。詳しくはかかりつけ医にご相談ください。

詳しい情報は <https://www.know-vpd.jp/> **VPD** **検索**